

# 東亜利根ボーリング

## 「またぎ施工」可能 リニアターゲットに新型機

ボーリング用機器・掘削機械の製造・販売を手掛ける東亜利根ボーリング（東京都港区、伊藤春彦社長）は、地中連続壁を構築する回転水平多軸式連続壁機「CMX-SE」  
「写真」を開発した。リニア中央新幹線の建設工事を見据えて開発した新型機。起点となる東京の品川駅や名古屋駅での大深度工事を想定し、狭い地下空間での施工や移動の自由度を高めた。1号機はケミカルグラウトが購入した。



CMX-SEは掘削機本体とベースマシンで構成。機械高は5・1メートルと低空頭での施工が十分可能な設計となっている。狭い場所での施工の自由度を高めるため、ベースマシンによる旋回に加え、掘削機本体の回転角度を90度まで調整できるようにした。これにより、掘削箇所をベースマシンがまたいで掘削する「またぎ施工」を可能にした。

狭い場所での移動性能を高めるため、「4点油圧ジャッキ」を新たに装備。機械がその場で走行方向を自由に変えられるようになっている。掘削するドラムカッターの最大トルクは低空頭対応機の中でも最大級で、掘削効率も向上。分解搬送の際の時間を省く機構を取り入れたことで、現場で機械の組み立てに要する時間を約40%短縮した。

掘削の垂直精度を管理する角度計も内蔵し、ディスプレイに常時表示することでオペレーターの視認性を改善するなど、操作性も高めている。東亜利根ボーリングによると、2020年東京五輪開催に向けた公共交通施設の整備や再開発事業などに伴い、地中連続壁を用いた工事の増加が見込まれるのに加え、上海やシンガポールなども都市部の地下空間利用のニーズが高まりつつあるという。今後、国内外を問わず積極的に新型機を営業展開していく方針だ。

